

商業（財務会計Ⅱ）

履修単位	2単位	学年	3年	学科	商業科	コース	簿記コース	区分	必修・ 選択
------	-----	----	----	----	-----	-----	-------	----	--

1 学習内容と学習目標

企業会計についてすぐれた知識と技術をしっかりと身に付けるとともに、ビジネスの諸活動において合理的に活用する能力と態度を身に付ける。

2 教材等

教科書：財務会計Ⅱ（実教出版）
 補助教材：全商会計実務検定試験テキスト 財務諸表分析（実教出版）
 全商会計実務検定試験テキスト 財務会計（実教出版）
 日商簿記検定模擬試験問題集2級 商業簿記・工業簿記（実教出版）

3 年間学習計画

学期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	考査 範囲
一 学 期	第1編 総論 1章 財務会計の基本概念 2章 資産負債アプローチと 収益費用アプローチ 3章 会計基準の国際的統合	4	○財務報告における情報の特性、すなわち意思決定有用性について理解する。 ○アプローチの違いが利益計算の違い(包括利益と純利益)となって表れることを理解する。 ○わが国の会計基準の特徴を整理して、会計基準の国際的統合の流れを理解する。	中 間 考 査
	第2編 各論 [1] 4章 資産会計 5章 負債会計 6章 純資産会計	5	○資産の評価基準である原価基準と時価基準について習得し、公正価値の意味を理解する。 ○有形固定資産の評価方法について理解し、圧縮記帳の処理方法を習得する。 ○金融資産、棚卸資産、固定資産における減損の会計処理について理解する。	
	第2編 各論 [1] 7章 リース会計 8章 税効果会計 【日本商工会議所簿記検定2級】	6	○ファイナンス・リース取引、オペレーティング・リース取引の会計処理について習得する。 ○利益、課税所得、益金、損金など法人税の計算について理解する。 ○一時差異と繰延税金資産・繰延税金負債について理解を深める。	
	第3編 各論 [2] 9章 外貨換算会計	7	○外貨建取引の意義、為替換算と為替差損益について理解する。 ○外貨建項目の決算時の会計処理について理解する。	
《課題・提出等》 ノート、プリント、問題集、小テスト(訂正を含む)、宅習課題、考査訂正 等				
《第1学期の評価方法》 定期考査、授業態度(出欠含む)、課題提出状況、学習活動への取組状況を総合的に評価する。				
二 学 期	第3編 各論 [2] 10章 キャッシュ・フロー計算書	9	○キャッシュ・フロー計算書の意義と必要性について理解する。 ○キャッシュ・フロー計算書の表示区分および表示方法について理解する。	中 間 考 査
	第4編 各論 [3] 11章 企業結合会計 12章 連結財務諸表の作成(その1)	10	○合併会計、吸収合併の会計処理を習得する。 ○持分の変動には、支配獲得までの段階取得・支配獲得後の追加取得・子会社株式の一部売却があることを理解する。 ○連結財務諸表の作成方法を習得する。	期 末 考 査
	第4編 各論 [3] 13章 連結財務諸表の作成(その2) 【日本商工会議所簿記検定2級】	11	○持分法の基本的な会計処理を習得し、投資差額の償却・当期純利益の計上・配当金の修正について理解する。	

	第5編 財務諸表の活用 14章 財務諸表の活用	12	○有価証券報告書などにより、企業グループの現状把握や企業価値の評価などを考察する。 ○連結財務諸表の分析、株価の判断材料、企業価値の評価など、財務諸表の活用法を習得する。		
	《課題・提出等》 ノート、プリント、問題集、小テスト(訂正を含む)、宅習課題、考査訂正 等				
	《第2学期の評価方法》 定期考査、授業態度(出欠含む)、課題提出状況、学習活動への取組状況を総合的に評価する。				
三 学 期	第6編 監査と職業会計人 15章 監査と職業会計人	1	○会社法および金融商品取引法に基づく監査のしくみを理解する。 ○財務諸表監査の目的とリスクアプローチについて理解する。	卒業 考査	
	《課題・提出等》 ノート、プリント、問題集、小テスト(訂正を含む)、宅習課題、考査訂正 等				
	《第3学期の評価方法》 定期考査、授業態度(出欠含む)、課題提出状況、学習活動への取組状況を総合的に評価する。				
《年間の学習状況の評価方法》 学習状況は、後に示した4観点から評価した1学期の成績・2学期の成績・3学期の成績を総合的に判断し、年間の学習成績として評価します。					

4 評価の観点と評価方法

学習状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4つの観点から評価する。具体的な評価基準は下表のとおりである。

評価の観点と趣旨		評価方法
関心・意欲・態度	財務会計および監査について関心を持ち、その理論と技術の習得を目指して意欲的に取り組もうとしているか。会計情報を活用する実践的な態度を身に付けているか。	授業態度・定期考査 課題提出
思考・判断・表現	新しい会計基準や財務会計の基本概念について、自ら思考を深め、高度な知識と技術を活用して適切に判断する能力を身に付けているか。	授業への参加状況 定期考査・発表内容
技能	新しい会計基準に関する会計処理の技術を身に付け、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に提供・活用できているか。	授業への参加状況 定期考査・発表内容
知識・理解	新しい会計基準やその処理に関する知識を身に付け、財務会計の基本概念や監査について理解しているか。	授業への参加状況 定期考査・検定

5 授業を受ける際の注意事項

- ・ 学習の到達度を測るため、原則として、日本商工会議所簿記検定2級を受験する。
- ・ 学期ごとの評価が、30点に満たない生徒へは追指導を実施する。
- ・ このシラバスは、あくまでも予定であり学校行事やその他の理由などにより変更等になる場合がある。